

(1)評価基準に沿った評価	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
(2)記述評価						
・具体的に記述された就学期の児童・生徒向きの悪化因子対策マニュアルを作成して研究を完結すべきである。 ・個人情報の取り扱いへの配慮が必要である。いかにこの内容を拡大し、得られている内容に基づく介入を実行する仕組みを作るかが課題である。 ・この期間での成果が何なのかがわかりにくい。 ・就学期の喘息患者の予後悪化因子について検証して、パンフを作成して、教育指導モデルを構築した。更なる検証を期待する。 ・就学期喘息患者に対して、多彩なアプローチで研究を推進している。特に、受動喫煙の実態調査にはインパクトがあった。 ・受動喫煙や環境因子等を含む小児向けパンフレットの作成など具体的な成果が上がっており評価できる。また、高校生を対象とした取り組みを行っていることも貴重なデータとなっている。						